

あ・と・が・き

新年あけましておめでとうございます。編集者一同、今年もわかりやすい軽種馬育成調教の技術普及誌として役割を果たしていきたいと思っております。昨年は夏の猛暑によって日高の軽種馬育成調教場の芝にコガネムシの幼虫が大量発生し、一部分が食害を受け枯れました。しかし、芝の生育自体は全般的に良好で、追い切り専用の芝 2000m と坂路芝馬場の利用は近年では例が無いほど多く、活気に満ちていました。また、10 月には日高事業所長の諮問機関として馬場保全委員会が設立されました。今後、さらに馬場の使用・管理に万全を期すよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

日高事業所の育成調教技術者養成研修生は昨年の 9～10 月にかけて JRA 日高育成牧場の育成馬を使用して馴致実習を行い、今月からは騎乗実習に移行し、研修の最終段階に入りました。4 月に実施される育成馬展示会での騎乗供覧に向け頑張っています。(Y.H.)

「たづな」欄は JRA 佐藤理事からの寄稿です。時代や制度の変化によって競馬界が育成牧場に求めるものが多様化しています。BTC もこれらの要求に応えられるよう調教技術や施設・設備等を通じて協力していきたいと思えます。「やさしい育成技術」欄のテーマは疝痛です。早期発見、早期治療が重要である典型的な病気です。疝痛の種類によっては、発症回数や症状の軽重によって、その牧場の馬の管理状況が推察できます。「研修修了者からのメッセージ」欄での星川君の原稿中に『もったいない一年間を送ってしまったことに気づき後悔しています』という言葉がありますが、同じ言葉が多くの研修修了者の感想文中に見られます。現役研修生諸君！あと 3 ヶ月余、まだ手遅れではない！心せよ！「調査研究」欄では過去 3 年間に BTC 診療所へ来診した育成馬 840 頭の調査をまとめたものです。育成期の調教は発育に合わせた訓練を課すこと。言うのは簡単ですが、実行するのは難しい。わかりやすい指標やそれらを使用する手段はないのか、これらのことについて現在、BTC 診療所で研究中です。

「からだの仕組みを知る」シリーズの執筆者：兼子樹廣参与が昨年 11 月に BTC を退職されました。5 年間にわたり、本誌の編集にたずさわっていただき、感謝しております。長い間、ありがとうございました。今後もし指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。シリーズは引き続き掲載されますので、愛読されている方はご安心ください。今回から原調査役が編集を担当することになりましたので、今後ともよろしくお願いいたします。(H.H.)